

令和3年度第2回

すぎなミーティング報告書(令和3年12月12日開催)

「祝！90周年 後世に伝えたい杉並のイトコロ」

～区歴史と魅力を未来につなごう～



区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取り組みの一つとして、その時々行政課題をテーマに、区長と区民が直接意見交換をする場「～区長と話そう、聞いてみよう～すぎなミーティング」を開催しています。

今回は、「祝！90周年 後世に伝えたい杉並のイトコロ」をメインテーマに、「座・高円寺」の阿波おどりホールを会場にして、無作為抽出した2,000名の中から参加いただいた12名の方と、90周年記念事業がより効果的な事業となるためのアイデアについて話し合いました。



区長の想い！

●杉並区の語り継ぐべき5つの話



令和4年10月で、杉並区は区制施行90周年を迎えます。この節目に、区のこれまでの歩みを振り返ることは、将来への方向性のヒントを得るために大事なことと思います。そこで、90年歩んできた杉並区の歴史の中で、後世に語り継ぐべき話として5つの物語を取り上げることにしました。

1つ目は、杉並区発展の基礎を築いた内田秀五郎による大規模な土地区画整理事業などのまちづくりです。内田秀五郎の功績を振り返って、今日の課題解決のヒントを得たり、将来の区の展望を考えてみようと思っています。

2つ目は、原水爆禁止署名運動です。この署名運動は、1954年にアメリカがビキニ環礁で行った水爆実験によるマグロ漁船第五福竜丸の被ばくを契機に、当時の杉並区立公民館を拠点に展開されました。最終的に署名数は3200万人にのぼり、全国的な運動となりました。

3つ目は、東京高円寺阿波おどりです。商店街が始めた小さなお祭りが、いろいろな人の創意工夫や努力により、今では2日間で100万人もの観客を集める、東京随一の面白いイベントになりました。

4つ目は、東京ごみ戦争です。高井戸にある杉並区の清掃工場は、住民が行政と徹底的に話し合い、自分たちで解決した住民自治の成果であるという話は、後世に伝えていく必要があると思います。

5つ目は、自治体スクラム支援会議の取り組みについてです。東日本大震災の時、私は杉並区の交流自治体の南相馬市と直接関係のない他の交流自治体にも呼びかけ、迅速な連携支援を実現しました。この会議が提起した意見が、その後の災害対策基本法の改正内容に大いに反映され、災害対策の関係者からも高い評価をいただいております。

●じっくりと語り継ぐこと

この5つの物語「すぎなみファイブストーリーズ」を、90周年記念を皮切りに語り継いでいく歴史と位置づけました。伝え方についてはそれぞれ考えながら、100周年を見据え、しっかり10年間かけて語り継いでいく心意気で行っていこうと思います。



記念事業担当課の説明

●90周年記念事業の目的について

90周年記念事業の目的を、この節目を区民と区が一体となって祝うとともに、その先の100周年を見据え、次世代に区のこれまでの歩みを継承し、区民の愛郷心を醸成することとし、現在、90周年記念の各種事業を計画し、準備を進めています。

●90周年記念事業の視点について



90周年記念事業は、「区のこれまでの歩みの継承」「区の魅力の再発見」「区民の心をひとつに」という3つの視点で構成しています。

まず、「区のこれまでの歩みの継承」については、区長が先ほど申し上げた5つの出来事を、区の歴史を語るうえで欠かせない「すぎなみファイブストーリーズ」として次世代に継承していきたいと考えています。

継承の手法として、内田秀五郎のまちづくりについては、浪曲や電子紙芝居を製作し、多様な功績を継承していくといった事業を計画しています。原水爆禁止署名運動は、当時の運動参加者の親族や関係者の証言を組み込んだドキュメンタリー動画作成等の事業を進めていく計画です。東京高円寺阿波おどりについては、一商店街の事業「高円寺ばか踊り」として始まり、そこから今日の発展に至った経過等を演劇で継承してはどうか、と準備を進めています。東京ごみ戦争については、ごみに対する区民意識を大きく変化させた経緯を継承するため、当時の様子を知る方による講演、動画制作等の事業を企画しています。災害時相互連携都市との自治体スクラム支援会議の取り組みについては、派遣した区職員の手記制作等を計画しています。

次に、「区の魅力の再発見」として、記念誌の制作を進めていきます。また、冠事業の実施として、区制施行80周年を契機に始まったすぎなみフェスタほか、区の関係団体などが開催する各種事業に区制施行90周年の趣旨を盛り込んで実施していきます。

「区民の心をひとつに」については、ふるさと杉並をイメージした曲の制作、杉並公会堂での記念式典の開催を実施します。

これら90周年記念事業を一過性のものとすることなく、次の100周年に向けた継続的な事業として取り組んでいきます。



参加者の主な意見

●未来に起こる課題と杉並区の歴史を絡めて

資料や展示などに過去の功績を書き留めてあっても「ああそうなんだ」としか記憶に残らないと思うので、未来に起こる課題に対して杉並区の歴史とうまく絡めて伝えていくと、区民の記憶に残りやすいと思います。例えば、今後起きると予想されている震災と3.11の自治体スクラム支援会議の実績を絡めてネットワーク作りを考えると、内田秀五郎のまちづくりを参考に今後の安全なまちづくりを計画していく、などの方法は効果的かと思います。



●広い視野で見られるドキュメンタリー動画を

東京ごみ戦争については、杉並区の視点だけでなく、江東区からの視点や、日本のエコ問題などにも目を向けた広い視野でのドキュメンタリーの動画を作って、区民の皆さんに紹介できれば非常に役に立つのではないかと思います。

●駅を利用して情報を流す

杉並区には、高円寺、阿佐ヶ谷、西荻窪など個性的な駅があり、出入りする人がとても多いので、駅を利用して映像や音響などで情報を流すとよいのではないのでしょうか。

また、紙の媒体、ケーブルテレビ、SNSなど、あらゆるメディアを軸にして5物語を展開していけば、たくさんの方が興味を持つと思います。

●若い人たちを核に

杉並区は設備や組織がとてもよくできているので、それらをフル活用し、若い人たちを核に、学校教育などをとおして、確実に次世代に杉並区について伝えていくよう取り組むことが大切だと思います。

●目に飛び込んでくる情報を増やす

まずは、目に飛び込んでくる情報を増やしていったらよいのではないのでしょうか。例えば、オリンピックの時の「2020」のように、提灯とか横断幕などを使って、「90」という数字をPRして区民に認知してもらい、そこから記念事業や5物語への興味につながるようにするとよいのではないかと思います。

●区長

皆さんとのディスカッションを通じて、まず見学する、特に小中学生などの若いうちに見学するのが大事ではないか、ということを感じました。例えば、以前の初代清掃工場は、まさに「工場」という雰囲気施設でしたが、今の二代目となる清掃工場は、見学も目的とすることを前提に作られ、非常にきれいな見学コースが設けられています。このような施設をもっと幅広く活用してほしいと思います。

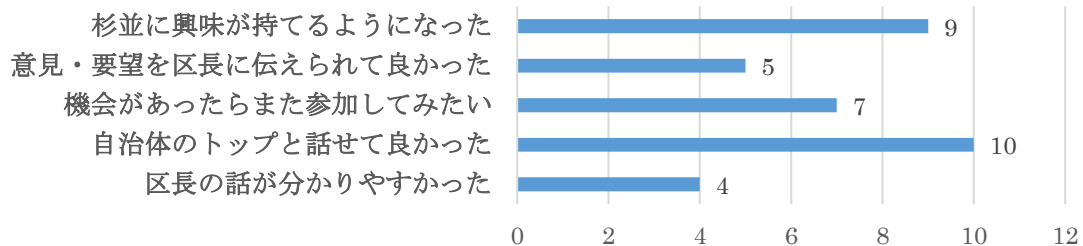
5つの物語「すぎなみファイブストーリーズ」については、コミュニティスクールを活用しながら伝承したり、アニメを活用するなどして「世界に発信する」という心意気で伝えていきたいと思います。本日、皆さんからいただいた様々なご意見を反映できるよう、この事業に取り組んでいきます。

また、新型コロナウイルス感染予防に注意を払いつつ、人と人が会って話をし、意見を交換するという機会を、もっと復活させてもいいのではないかと思います。リモートでの交流にはやはり限界があり、このような場を設けて意見交換することがいかに大切か、ということ、今回の懇談において大いに感じ入りました。





すぎなミーティングに参加した感想（複数回答有）（12人）



すぎなミーティングを終えて

今回のすぎなミーティングでは、参加された方々から、90周年記念事業をより効果的な事業にするための様々なご意見やアイデアを聞くことができました。

ミーティング終了後のアンケートでは「世代の違ういろいろな人たちとアイデアを共有できる貴重な経験でした」「なかなか自分の地域について考えることがなかったので、非常によかったです」「住んでいる杉並の歴史を学んで、とても貴重な時間を持つことができました」などの感想をいただきました。

このミーティングでいただいたご意見等は、今後の取り組みに活かしてまいります。

令和3年度 第2回すぎなミーティング報告書

・開催日 令和3年12月12日

・参加者 区民12名、区長、記念事業担当課長 ほか

令和4年6月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111